

建設通信新聞

発行所 日刊建設通信新聞社
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-13-7
電話(03)3259-8711
FAX(03)3259-8730
©日刊建設通信新聞社 2019

職人の技能を実体験

大学生が鉄筋のガス圧接継手を
を実体験しながら学ぶ。全

国圧接業協同組合連合会(大場毅夫会長)は21日、宇都宮大学と産学連携による実習を行った。宇都宮大学地域デザイン科学部建築都市デザイン学科の鉄筋継手講座・実習に鉄筋ガス圧接継手の施工実演で協力した。同学科3年生53人、研究室の4年生と大学院生13人の66人が受講した。実習に協力するのは昨年に続き2回目。同学科の杉山央教



ガス圧接のデモンストレーション

全圧連が宇都宮大でガス圧接実習

授は、ことし5月に日本鉄筋継手協会の会長に就任している。同学部では受け身で知識を得るだけでなく、学生自身が主体的・能動的に学ぶ力を養うために、アクティブラーニングを積極的に導入している。建築都市デザイン学科では、建築材料実験の講義・講習で、学生が建設業に就職してから必要になるセメント、コンクリート、木材などの試験方法や施工方法を体験させているものの、大学の施設・設備で実施できるものに限定されていた。そのため、特殊な機器や技能を必要とする建築技術を実験するには専門工事業界

と専門実務者の協力が必要だった。講座では、まず鉄筋継手についてガス圧接の接合原理や作業手順、鉄筋継手の種類(ガス圧接、溶接、機械式)とその特徴などについて説明。その後、体験実習に移った。実習では全圧連の指導員がD51SD490ねじ鉄筋をガス圧接するデモンストレーションを行った後、学生が指導員の介添えで実際にバーナーを使ってD25SD345竹節鉄筋を熱し、ガス圧接を体験した。接合した鉄筋は継ぎ手部を超音波探傷試験して接合を確認した。

体験した学生は「簡単に見えるが、職人の業があることが分かった」「鉄筋が柔らかく、木材になっていくのを見て、実際に受講したが体験できなかったの、ことしは体験できて良かった。熱を感じて、貴重な体験ができた」などと、体験することになったようだ。



指導員の介添えで学生が実際に
ガス圧接を体験